

令和 2 年 1 月 28 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K15796

研究課題名（和文）看護師のキャリア形成のためのナラティブ・アプローチ実践評価方法の開発

研究課題名（英文）The Development of Narrative Approach Evaluation Method for Nursing Career Formation Program

研究代表者

福田 敦子（FUKUDA, Atsuko）

神戸大学・大学院保健学研究科・講師

研究者番号：80294239

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ナラティブ・アプローチ実践による看護師のキャリア形成プログラムの成果の現れ方すなわち具体的方法を明らかにすることである。ナラティブ・アプローチ実践によるキャリア形成プログラムに参加した看護師は、プログラムで体験したナラティブ・アプローチを基盤に、個々の看護師の立場で、その状況合った実践を試みていた。このことは、ナラティブ・アプローチの特徴である「語り手」と「聞き手」の関係性を基盤としていたことより成果が見出されることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、ナラティブ・アプローチの実践評価を開発することは、看護が対象とする“人”の多様な個性を踏まえた研究の評価指針を提示することができる。このことにより、臨床現場に実践として取り組みやすくなる。看護師は、葛藤を和らげ、看護師個々が大事にしているキャリア形成を促すことができる。看護師個々が主体的に行動でき、日々の看護実践に新たな意味が生まれ、さらにそれが新たな看護を生むことにつながる。本研究の成果は、一般化する科学的研究と同等に扱うことを可能とする。看護領域、医療だけでなく、人を対象とする分野にも広く適応可能とし、自分と他者それぞれ同じ価値のもと理解することにつながる。

研究成果の概要（英文）：The aim of the research is to develop a concrete methodology for a Nursing Career Formation program that emerges from a narrative approach.” Participants who underwent the program through a narrative approach attempted to approach practice using a narrative lens. Results of this study were based on the relationship between “the speaker” and “the listener”, which is characteristic of the narrative approach.

研究分野：看護教育学

キーワード：ナラティブアプローチ実践 成果 評価方法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、複雑多様な臨床現場の看護師は、優れた看護実践をしていますが、日常化し、自己の看護実践を意味づける機会が少ない。その支援方法の一つとして、看護師個々の物語が生まれる新たな支援方法であるナラティブアプローチを基盤とする「ナラティブ・アプローチによる中堅看護師キャリア形成プログラムの開発(平成24~26年度 基盤研究C、研究代表者:紙野雪香)に分担者として取り組んできた。その成果は、看護師個々が自分の看護実践を振り返ることで、看護師自身が主体性をもち、看護実践に自信を持ち、未来を志向し行動し続けることにつながり、キャリアを思考することができるが見出されている。このことを実践者である看護師あるいは管理者もその成果を実感している。しかし、手応えを感じている実践成果をどのように現すと良いのかはわかっていない。看護学領域において、ナラティブ概念の理論的背景を十分に踏まえたものはなく、ナラティブアプローチへの関心が高いものの、実践方法に戸惑っている現状がある。さらに、ナラティブアプローチの実践の成果をどう捉え、どう表現したらよいか、方法が明らかにされておらず、看護専門家としての脱構築の困難さなどが指摘されている(紙野,2012)。ナラティブアプローチ実践の成果をどのように現すとよいのか、評価指針とその具体的方法は明らかになっておらず、探求すべき重要な課題である。

看護学領域においてナラティブ研究は、国内外ともに2000年以降研究論文は増加し、注目される新しい概念であり、研究の土台は築きつつあるが、学問としての研究方法は発展途上にある。ナラティブは「語る行為(語り)」と「語られた内容(物語)」の2つの意味を含む複雑と複数解を許容する(Bruner,1986)。一般的に「評価」とは、人・物事の善し悪しを判断することである。しかし、本研究テーマとしている成果は、善し悪しではなく、対話プロセスと自己の実践に新たな意味が生まれてくることであり、定数化、数値化できない「多様な意味」であり、「その人らしさ」の変化が起きていることである。しかし、その成果の現し方の方法はなく、学術的に探求すべき意義深く取り組むべき課題である。

本研究は、ナラティブ・アプローチ実践によるキャリア形成プログラムを受けた参加者の看護師に立ち現れてくる成果を、ナラティブアプローチの世界観から明らかにする点は、斬新で、加えて科学的研究を補完することができる実践研究方法として評価指針とその具体的方法を示すのは初めての試みである。

## 2. 研究の目的

看護師のキャリア形成のための対話を基盤とするナラティブアプローチ実践評価方法を開発するために、以下の点を明らかにすることを目的とする。

(1) 現在取り組んでいるナラティブアプローチによるキャリア形成プログラムを受けた参加者に立ち現われた成果を明らかにする。

(2) さらに、その成果から、ナラティブアプローチ実践の評価指針とその方法の具体を示す。

ナラティブ・アプローチ実践の評価指針とは、“私の看護実践”に意味が生まれることを重視し、役割から解放され厄介そうで避けていたスタッフ看護師と対話を楽しむようになったなど、“私らしい看護実践像”が言語化され主体感覚をもって未来を志向し、行動を起こすことである。

本研究から得られる知見は、ナラティブアプローチ実践研究の成果の現し方と、評価指針とその方法を示すことができることである。

## 3. 研究の方法

#### (1) 研究対象者

ナラティブ・アプローチの実践研究「ナラティブ・アプローチによる中堅看護師のキャリア形成プログラムの開発」(平成 24～26 年度基盤研究 C, 研究代表者: 紙野) のプログラム参加者を本研究の対象者とした。

#### (2) 研究方法

研究対象者に、プログラム後の評価(成果)について、非構成的インタビュー調査およびフィールドワークを行った。なお、平成 28 年度以降の参加者にはプログラム後にナラティブ・アプローチに関する調査まで日誌(メモ)に記載してもらった。

対象者の承諾を得て IC レコーダーにインタビュー内容を録音した。フィールドワークは、ナラティブ・アプローチによる対象者の経験世界である場を知るためであり、インタビュー内容を補足する位置づけとして行った。フィールドワークの範囲は、対象者が日常勤務している場とし、インタビュー調査の前あるいは後に行った。日誌は、インタビュー内容を想起するための媒体として用いた。

本研究方法の特色として、研究者自身も研究方法に参加しており、インタビューはナラティブ・アプローチの前提とする自由な対話空間に努めた。分析の際には、ナラティブが本質的に内包する共同性と他者性を参考に 関係性 文脈 生成された意味 変化プロセスに着目する(森岡, 2007)(やまだ, 2008)。ナラティブ・アプローチは語り手ときき手を含む物語的接近法であり、きき手となる研究者も臨床現場を構成する 1 人として、その関係性の中にある現実を分析した。

なお、本研究は、研究代表者の所属先の倫理委員会の審査にて承認を受け実施した。研究対象者の所属施設管理者に承認を得た上で行った。また、対象者に参加は任意であること、同意をしなくても不利益がないこと、撤回の自由を保障し、研究の意義・目的・方法・期間・研究者の氏名および職名、予測される利益および不利益、研究終了後の対応、個人情報保護、個人情報保護した上で研究成果を公表すること、資金源、データの保存方法およびその期間、問い合わせ方法等について書名および口頭にて説明し、文書による同意を得て行った。

### 4. 研究成果

本研究の成果は、プログラム参加者個々がナラティブ・アプローチを体験し、プログラムで得たことを基盤とし、臨床で看護師個々の状況に応じた実践を行っていた。看護師は自分の大事にしている看護実践を意味づけ、自分らしさを回復させ、未来を志向し、自分らしい看護実践を試みるというキャリア形成に自ずと取り組み始めることが明らかになった。さらに、この成果は、看護師の実践のみに留まらず、看護師の所属している組織にじわじわと波及をしていた。これは、参加した看護師個々がナラティブ・アプローチを知ることにより、対象の見方が変化し、対象理解が深まり、理解の質を変化させていることが考えられた。

この成果はナラティブ・アプローチの特徴である「語り手」と「きき手」の関係性を基盤としていた。それは、水平な関係性において安心と安全が保障されていること、その中で看護実践の意味を共に作るということであった。

本研究で用いるナラティブ・アプローチは、看護師個々がインターアクションを最小単位とする自己の看護実践を重視し主体感覚をもって未来を志向することが可能であり、このことが看護実践に磨きをかけ、臨床現場の質を高めることが可能である。また同時に、ナラティブ・看護管理者が自分の価値を持ちつつも他者の価値を認めることは、複雑多様な臨床現場の見方が変わり、風通しの良い職場風土の基盤につながることを期待される。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 6 件)

福田 敦子, 森岡 正芳, 紙野 雪香, 高橋 清子, 個人の進化と組織の活性化をもたらすナラティブプラクティス 第 6 回 ナラティブを愉しみ, ナラティブアプローチで看護の成果を捉える, 看護管理, 査読無, 29 (10), 2019, 960-963

高橋 清子, 福田 敦子, 紙野 雪香, 森岡 正芳, 個人の進化と組織の活性化をもたらすナラティブプラクティス 第 5 回 ナラティブ風土をつくる, 査読無, 29 (9), 2019, 862-865

福田 敦子, 紙野 雪香, 高橋 清子, 森岡 正芳, 個人の進化と組織の活性化をもたらすナラティブプラクティス 第 4 回 “私”と“部署”の看護実践が広がる, 看護管理, 査読無, 29 (8), 2019, 788-791

紙野 雪香, 福田 敦子, 高橋 清子, 森岡 正芳, 個人の進化と組織の活性化をもたらすナラティブプラクティス 第 3 回 未来を一緒に描く看護実践, 看護管理, 査読無, 29 (7), 2019, 672-675

福田 敦子, 紙野 雪香, 高橋 清子, 森岡 正芳, 個人の進化と組織の活性化をもたらすナラティブプラクティス 第 2 回 看護実践について語り合った“成果”を捉える - 看護職者に立ち現れた成果 -, 看護管理, 査読無, 29 (6), 2019, 558-561

紙野 雪香, 福田 敦子, 高橋 清子, 森岡 正芳, 個人の進化と組織の活性化をもたらすナラティブプラクティス 第 1 回 看護実践を語り合う時空間の創造, 看護管理, 査読無, 29 (5), 2019, 458-462

[学会発表](計 8 件)

**Fukuda Atsuko, Kamino Yukika, Takahashi Sayako, Consideration of the Results of a Narrative Approach Aiming for Nursing Practice Visualization, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2020**

福田 敦子, 紙野 雪香, 高橋 清子, ナラティブアプローチによるキャリア形成のためのプログラムを受けた訪問看護師に立ち現れた成果, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 2019

福田 敦子, 紙野 雪香, 高橋 清子, 松月 みどり, 豊かな経験に基づく看護師の進化をめざすナラティブアプローチの検討 ~ キャリア形成支援の新たな方法を拓く ~, 第 50 回日本看護学会 (管理学会) 学術集会, 2019

福田 敦子, 紙野 雪香, 高橋 清子, 大關 和子, 現任教育におけるナラティブアプローチの実践とその成果 - 私が大切にしている看護実践の探求 -, 第 29 回日本看護学教育学会学術集会, 2019

**Fukuda Atsuko, Kamino Yukika, Takahashi Sayako, Visualization of Nursing Practice by Narrative Approach (2) - Achievement of Narrative Practice -, The 5th CJK Nursing Conference, 2018**

福田 敦子, 紙野 雪香, 高橋 清子, 松月 みどり, 私らしい看護を見出すためのナラティブアプローチ実践の成果と評価方法の検討 - 私に立ち現れるもの、臨床現場にもたらすもの -, 第 22 回日本看護管理学会学術集会, 2018

福田 敦子, 高橋 清子, 紙野 雪香, ナラティブアプローチによるキャリア形成のためのプログラムを受けた看護管理者に立ち現れた成果 (その 2), 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017

高橋 清子, 福田 敦子, 紙野 雪香, ナラティブアプローチによるキャリア形成のためのプログラムを受けた看護管理者に立ち現れた成果 (その 1), 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017

[その他]

ホームページ

紙野雪香 Web Site

<http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/~kamino/>

## 6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 紙野 雪香

ローマ字氏名: **KAMINO, Yukika**

所属研究機関名: 大阪府立大学

部局名: 大学院看護学研究科

職名: 准教授

研究者番号 (8 桁): **10294240**

研究分担者氏名：高橋 清子  
ローマ字氏名：**TAKAHASHI, Sayako**  
所属研究機関名：千里金蘭大学  
部局名：看護学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：**90343251**

研究分担者氏名：森岡 正芳  
ローマ字氏名：**MORIOKA, Masayoshi**  
所属研究機関名：立命館大学  
部局名：総合心理学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：**60166387**

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：齋藤 伸子  
ローマ字氏名：**SAITOH Nobuko**

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。